めだかの学校だより

平成19年11月1日
第58号
学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第五十八回校長　大場　敬子

9月中旬に榊原さんから突然ハガキが届きました。なんの連絡かなと見てみたところ、なんと「校長先生よろしく」と書いてありました。夏休みの宿題を残りのわずかな時間で必死にやっている最中だったので、「そんなんありえへん、これぞ泣きっ面に蜂？」という感じで、校長先生を拝命することとなりました。

どうして夏休みの宿題かというと、話は長くなるのですが、第52回のめだかの学校で先生をさせて頂いた時、聞き上手で褒め上手な皆さんに、「よかったよ。どこで研究してるの？」などといっていただきました。そして、気をよくしていたところに、「大学院へ来ない？」というお誘いを受けました。ちゃんと研究できるならしてみたいと思い、受かったら儲け物と、駄目もとで受けてみました。すると、何かの間違いで受かってしまったのです。

というわけで、今大学院生をやっているからなのです。

大学へ入りなおして、いろいろな体験（苦労？）をしています。めだかの学校では、まだ若い方？なのですが、大学では当然十分年長者でした。本を読んでもなかなか頭に入らず、記憶力も低下しまくっておりました。アカデミックな世界からも長いこと遠のいていたので、「アカデミックに」、「院生らしく」と要求されても、そもそも「院生らしいってどういうの？アカデミックとは？？」と友達と一緒に、悩みまくっています。

めだかの学校で報告したようなことについて、更に研究したかったのですが、それは「ジャーナリスティックな問題で、アカデミックで取り扱うのはよろしくない」と言われてしまいました。新しいテーマも見つからず、日々単位取得の為の発表のレジュメ作りにおわれ、肉体的にも精神的にも疲弊している毎日です。

というわけで、職員会議にも出られず10月中旬には慶事と弔事が重なりまくり、伯母さんになったりしていたので、校長訓話の提出もギリギリになってしまいました。

そのようなわけで頼りない校長ですが、よろしくお願いします。

めだかの学校伝言板

――第58回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校　長／大場敬子
教　頭／池谷俊裕
用務員／土井堅史
給食係／村木謙弌、浜口弘睦、間渕亮太、萩田博
古田賢二郎、本間稔、荒木順子、島田尚子
大谷香代子、渡辺三ツ子（チーフ）

＜学舎＞静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場
TEL なし

開校日／平成19年12月7日（金）6：20ＰＭより――
受　付／大貫正信、濱田綾子、松下信久
斉藤　昭（後見人）

＜時間割＞
［15周年通年テーマ「界を越えて」特別授業］（1時限）
・社会科「三遠南信に夢をのせて」
松田不秋先生
※10分間の質疑応答あり
給食の時間
～年越しご膳～
（お箸はマイ箸、竹箸をつくります）
10：30閉校

めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

■これからも「めだか」

「めだかの学校」が、開学されてから十五年が経つ。私は、日記をつけないので正確にはわからないが、入学したのは平成五年頃のような気がする。建学には係わっていないが、かなり早くから登校している。授業や給食などの学校の進め方は、早いころから確立されていた。三、六、九、十二月の第一金曜日の夕方六時半、引佐自然休養村であった「つみ草」の二階を教室にして、用務員さんの振る鐘で学校が始まる。かなり古くなった畳敷きの広間で、新入生の紹介の後に、一時限が十五分の授業が三本と校長先生の訓話が行われる。「めだかの学校」の生徒でない人が、先生や用務員を務めたというのは、いままで知らない。特別開校はあっても、臨時休校はなかった。

授業が終わると、給食である。開校日の午後三時ころから給食当番が集まって、厨房を借りて準備が行われていた。給食当番は授業にも出ず、調理や配膳をした。初めの頃は、今のようなお弁当スタイルではなかったような気がする。別棟の宴会場に移ってくじ引きで席を決めて、「いただきます」の合言葉で、ビール付きの給食すなわち交流会が始まった。給食開始後しばらくは、席の移動が厳しく禁止されていて、席ごとに座長を選んで、自己紹介や情報交換が行われた。席の移動が解禁されると、給食どころか大宴会になった。そして、盛り上がっているころに突然、鐘が激しく振られて、事務局の榊原さんから「私語、一切禁止」という声が飛ぶ。少し長めの連絡事項や注意があって、次期校長や教頭などの人事が発表される。何の前触れや内示もなく、突然指名されるのである。放課後は、といっても夜中の十一時ころからであるが、三々五々、宴会場やロビーに人の輪ができていた。お酒を呑んで帰れなくなった生徒は、授業が行われた広間などに泊まった。朝方四時ころ、人の声がするので、ロビーに降りてみると、まだ、喧々諤々の議論が行われていたこともあった。

とにかく、「誰が生徒か　先生か」、「時には先生になり、時には生徒になって、おもしろおかしく学ぶということを建学の精神（こころ）」として、「めだかの学校」は続いてきた。多くの生徒が集い、学び、遊んできた。自然の小川にいるメダカと同じように、新しい仲間が入ってきて、離れて行くメダカもいた。中には、戻ってくるメダカもいた。「学校の設置母体はあくまでも、おもしろ人立。好奇心と遊び心、そして挑戦が「めだかの学校」のコンセプトである。」という「基本に流れる精神」を忠実に守って登校した生徒の中には、人生がかなり変わった者もいる。私も、もし「めだかの学校」に登校していなかったら、ずいぶんと淋しい退屈な日々になっていたかもしれない。

青年団や婦人会は、各地で消えた。いま、老人クラブも、加入者は少なく役員のなり手もなくて困っているという。地縁で組織し異質が許されないコミュニティーは、新しいネットワークもできずに魅力を失っている。仕事や住まいは違っても趣味が同じ、年齢や所属が違っても、環境保全や福祉などの目的が同じといったコミュニティーがどんどん増え、進化し、大きな役割を果たすようになってきている。それは、新しい発見があり、ネットワークが次々と広がり、構成員それぞれの役割の高まりが、日々の暮らしの楽しさを感じ、生甲斐を創り出しているからであろう。そうした意味で、私達の「めだかの学校」は、先駆的な取り組みであったし、これからもこうした新たなコミュニティーづくりのリーダー役が期待されている。今、私たちは十五年目を機会に、もう一度、建学の精神である「「もう一人の私」発見、「もう一人のあなた」発掘、ともに学ぶ喜びを享受し、人生を楽しくやっていくことを目的として、受動的なお客様ではなくて、自らが積極的に物事にぶつかっていく能動的な挑戦心」を思い出し、見つめ直して、次の一〇年二〇年へと、泳ぎまわって行きましょう。（というわけで、十五周年記念行事への御協力をお願いします。）

（なんでもあり農園小作人の松）

■地域活性化フォーラム in 静岡

2007.8.29

静岡県男女共同参画センター　あざれあ、にて　石野が参加した。

今回のフォーラムは、地方自治法施行60周年記念事業として開催された。県内各地から、地域に何らかの興味や意欲 関心を寄せる者300名が熱心に聞き入っていた。その中に男女を問わず若者がいたことは心強かった。反面、心細かったのは我がめだか生が見当たらないことだった。

都会的でスタイリストな白石真澄教授の基調講演、『住んでよし！訪れてよし！の街づくり』というテーマで1時間ほど話された。21世紀は「おばあさんの時代」、寄り添って生きる、集合して生きるなど事例を交えてのお話だった。団塊世代の大量退職を迎え、都市から田舎への移住や二地域移住の気運が各地で高まってきていることは確かだ。これを地域づくりの戦略に使わない手は無いと言うわけだ。

新しいふるさとづくりを移住と交流をとおして地域の活性化につなげて行く、そこからいろんな価値が生まれることを知っていくことが大切だ。違った考えや組織との交流はなかなかエネルギーが要る。だからこそお互いのいいところを認識しながらする交流は、互いに刺激し合い、成長していく。田舎の人と都会の人との交流は、今までの付き合いの中では得られなかったセンスを磨き、自らを成長させることができる。ここから新しい発想が生まれ、改めて地域のよさや気づかなかったものを発見し価値が生まれてくる。

こんなことを考えながら次のパネルディスカッションに！パネリストに静大の小桜義明氏と稲取温泉観光協会事務局長、渡辺法子氏など5人がそれぞれの角度から意見を述べ合った。

小桜氏は自ら静岡市に移住し、中山間地での村おこしと人づくりの視点から地域づくりの実践を！渡辺氏は雛の里稲取を核に、事業化できることを探り、町の人と稲取らしさを具体的に掘り出していこうと奮戦奮闘していると！

帰りには、「ちょこっと田舎暮らし」がいいか、「どっぷり田舎暮らし」がいいか、「のんびり田舎暮らし」がいいか「都会型暮らし」がいいか、起業家気分に浸りながら家路に着いた。

（石野省三メダカ）

■気田川清掃活動ボランティア募集

アウトドアやキャンプ、川遊びや鮎釣りなど自然豊かな気田川をきれいにしようーと、11月17日(土)午前9時～10時30分まで、春野町領家、ふれあい公園東側駐車場前「秋葉苑」に集合、気田川新秋葉橋～犬居橋の気田川沿いの歩道及び河原のゴミ拾いなど1時間ほどします。無料。動きやすい服装で。「はるの産業まつり」もあります。

問い合わせ、みんなの気田川の会　内田貴久新メダカ（090・8473・8348）

■遠州森町発
「第5回町並みと蔵展」

「町並みと蔵展」は、11月17日・18日の2日間午前10時～午後4時まで、「遠州の小京都」といわれる森町の中心市街地を会場に行われる。文化の香りをかぎながら、晩秋のそぞろ歩き…いいものですよ。

問い合わせ、榊原淑友メダカ(0538・89・7810)

■第19回いなさ人形劇まつり

11月23日～25日の、3日間引佐町の多目的研修センターを主会場に、人形劇団ひとみ座、人形劇団クラルテなど、県内外の人形劇団が参加して人形劇まつりが行われる。実行委員に森下芳則メダカ、永田清元メダカも参画。実行委員長は柴田宏祐メダカ。「バラさんが立ち上げた〝人形劇まつり〟続けないと!」と委員長。

問い合わせ、053・542・1111浜松市引佐地域自治センター地域振興課。

『人・ひと・ヒト…だより』

●森町の太田康雄メダカ。来年の3月の森町の町長選に立候補表明と、11月1日の静岡新聞に。現在は町議会議員。父上は3期町長とか。前回の町長選は現職の元メダカに榊原淑友メダカが挑戦。今回も同じ構図?。とにかくがんばって!。

●名古屋市の山根圭二メダカ。めだかって、どこへも飛んで行くんですね。21世紀を生き抜くのはめだかだけかも。「めだか通信」もデザインが一新され、カラーもついておしゃれに…だって。

●おしゃれと言えば掛川市の荒木順子メダカ。明るくて元気なお嬢さん(重いなア、このヨイショ)。「女性を美しくするお手伝い」とか。

●浜松市の中村明男メダカ。「浜松を音楽の街に!」と、ヤマハを退職した後も大車輪。頭の中は音楽一色?。いやーけっこう、けっこう。

●磐田市の川島安一メダカ。11月7日島田市初倉阪本茶農協婦人部で、「静岡県の農政、農業の現状と未来…」などの講演。喜瀬川はつ枝メダカや池谷俊裕メダカの奥さんがまとめ役だって。

●細江町の土井堅史メダカ。ブティックのオーナー。商店街の発展のために世話人となってがんばっている。めだかの学校に再入学して勉強したい、と。

●藤枝市の朝比奈國雄メダカ。体調が優れず誠に残念、退学させてください。少ない出席で申し訳ありません。バラさんを中心にがんばって、いつまでも続けてください、と。寒くなります。お大事にね。

●浜松市の岡本公子メダカ。5月に脳管延髄損傷で4ヶ月あまり入院。闘病の結果、再起不能状態から少し文字も書け、少し歩けるようにもなりました。「社会の風も聞きたいから継続させて!」と、切手の寄付も。「車の運転ができるようになったら、めだかの学校へ行くといいよ」と息子さん。

●浜松市の溝口久メダカ。2年後の第24回国民文化祭・しずおか2009の準備に励んでいる。募集した愛称に2500通程の応募、12月のメダカの学校の頃には公表されているので皆さん口にしてね…だって。

【57回新入生、再入生紹介】

●濱田綾子(磐田市)蚊帳の生地に絵を描く。手書き大好き。重ね絵にする蚊帳アート。10月27日には見附の西光寺で尺八と篠笛のお寺コンサートを企画開催。●佐藤俊子(静岡市)「静岡に文化の風を」の会の世話人代表として多くの文化の掘り起こしと啓発活動にがんばる。会には小嶋良之メダカや池田タキ江メダカらも。●大貫正信(磐田市)昨年まで鮎の養殖をやっていた。若き頃医大から農大へ転校、生物に魅せられて。「鮎のことなら私に」と。●山下智之(浜松市)歴史研究家で企画会社の社長。多方面で活躍中の元気いっぱいの変人とか。●平沢文彦(長野県天龍村)学校法人「どんぐり向方学園」の教諭。中野昌俊理事長と共に不登校児童の教育に情熱を燃やす。一生涯片腕になってくれる人募集中とか。●中野昌俊(長野県天龍村)再入〝学校法人「どんぐり向方学園」の理事長。天龍村の廃校を利用して、不登校児童の教育に、周囲を説得しながら学校法人まで漕ぎつける熱意はさすが。専門は大脳生理学。●池田恵一(静岡市)再入「この4月あさひテレビからグループ会社の朝日メディアグループの社長に。県立子供病院の応援ボランティアをご家族で長く続けている。

■バラさんの街角ファイル

「9月16日」「第1回森町掃除に学ぶ会」に鈴木正士メダカと参加。会場の町立森町小学校の駐車場はびっしり。なんと町内外から180余人が参加とか。榊原淑友メダカのあいさつも堂に入り、各班に分かれてトイレへ。色々の道具を使って素手でゴシゴシ。「トイレ掃除で心を磨こう」。トイレはきれいになったが心はねぇ～。

「9月19日」島田市の先祖の墓参りのおりに池谷農園に。池谷俊裕メダカ「屋上緑化、公園、庭園などに使う34種類ほどのグランドカバー用の緑化植物を生産している」と。東名の天竜川以西の中央分離帯の植物は池谷農園のものだって。知らなかった～。

「9月22日」舞阪町で開催された、はまなこ環境ネットワーク「はまなこ楽会」に出席。「水源まつり」と「めだかの学校」のパネル展示。11時から漁船で表浜名湖のアマモとアオサの視察。ゴア氏の「不都合の真実」の映画を見る。待ったなしの地球温暖化。つくづく思う、足元から。

「10月11日」森町文化会館「三木ホール」での、中村文昭「お金でなく人のご縁ででっかく生きる」の講演会に行く。800人の会場はびっしり。中村文昭さんの涙あり笑いありの話はもちろんだが、榊原淑友メダカら森町のメダカ生の情熱に感動。亀沢進実行委員長のあいさつの時には「ヨッ、亀ちゃん!」とかけたい衝動に。ここにも主催、観客に多くのメダカ生。うれしい限り。

「10月27日」10月26、27、28の3日間、掛川市横須賀で開催の「ちっちゃな文化展」に伊藤英雄メダカと。小雨すこぶる町並みを相々傘で。男2人で色気のないこと。先ずはメダカ生の耳塚信博、土屋誠一、鈴木真弓の3人の展示屋をのぞく。いい顔してる。作品もいい。街ブラしながら松本芳廣メダカのそば打ち道場へ。いやぁ、現職メダカと元メダカの大サービスの大盛ザルそば。帰り道水島加寿代メダカが大判焼きのお店の前でかぶりつき。「マイ箸出展の人がめだかの学校に興味が…」と加茂光廣メダカ。鳥山剛メダカ邸に寄って帰路に。「あした天気にな～れ!」

「10月28日」細江町の関所まつりと旬の物産展に行ったが、出展者とお客様にメダカ生が大活躍していた。

「11月3日と4日」のサラダ「スモ視察と交流会には中村明男、今村純子から宿泊7名、日帰り6名、13名が参加。

紙面の都合で今回はこれまで。

トピックス

■グチ大賞は渡辺三ツ子

平成19年9月7日に開校された、第57回のめだかの学校「グチ大会」は、厳重(?)なる審査の結果、渡辺三ツ子メダカ が、「グチ大賞 ロテルド・寸座のペア食事券」を受賞しました。

準大賞は「久留女木の棚田米2kg」森下幸子。「お見合い券」平沢文彦、「浜松市美術家展ほか」水村春江、「余った弁当+マツタケ3本」松下信義メダカらに決まる。発表者は田邊哲、水村春江、水野忠義、松下信義、松本泰栄、 本間稔、渡辺三ツ子、斉藤昭、森下幸子、松田不秋、徳増兼弘、萩田博、牧野久子、平沢文彦、石野省三の15人。講評の城内実校長「めだか生は幸せなのかグチにもならないものばかり・・」と、なんとかグチらしいのは「お金を払っての木材の出荷・・」「給料が安い、なんとかして・・」ぐらい。新旧三役の審査も苦慮した結果の受賞者決定でした。

■引佐湖の菜の花の種まきと満開のコスモス

10月21日日曜日、引佐湖野外ステージに石野省三、服部守孝、徳増兼弘、土井堅史、榊原幸雄(孫つき)、島田尚子、渡辺三ツ子、伊藤英雄、牧野久子、鈴木正子(息子夫婦と孫2人)、一般の人も参加して菜の花の種まき。

花壇の草の方は牧野久子メダカがコツコツとやってくれたので助かったが、イタドリなど大きな草の根には大難渋。ワッサのサッと石野メダカと土井メダカが大奮闘。昼ごろにはタネは播き終えた。昼から西原弘メダカひきいるおじさんバンド「グラスフォー」がフィールドフォークなどを1時間演奏してくれた。6月に 植えたコスモスの花も満開。渡辺メダカと森町の村松達雄メダカが差し入れてくれた名物大福とまんじゅうを頬張って、至福の秋の昼下がりでした。

■事務局だより

この地、磐田市家田には柿農家が多く、周囲は柿の実の色づくほどに賑やかになってきます。佐野蓉子メダカの柿園も実もたわわです。収穫あとの柿園は秋の深まりと共に色鮮やかな模様に変化していきます。軒先にはつるし柿…まさに農のある風景となります。

扨て第57回のめだかの学校は、平成19年9月7日(金)開校。校長城内実、教頭今村純子、用務員加藤直樹。「どうなることやら・・ドキドキ…」とご3人。テーマは「〜時代は『知遇知生』、知に遇って知を生ず、まずはグチ川柳(?)〜『日本の未来は明るいか、みんなでグチる、グチっちゃおう』。まとめは城内校長「アイアム そ〜り〜」。今回は新入生が多く、また15周年の最初の授業でもあり、言い出しっぺの榊原メダカが、「建学の精神」と、「人との交流の中で自分を磨き、その人脈を通して自分を広げるのが大事」と説明。いよいよメーンテーマの『グチ大会』。今村教頭から指名され発表する15名の発表者。城内校長「めだか生は幸せなのか、グチにもならないグチばかり…」。まさにズレてる人も。15人目の石野省三メダカ「グチは後ろ向き、めだかは前向きで行こう!」。大賞、準大賞は別にして、結論はここにありきか。発表者、受賞者の名前はトピックスに。

お待ち兼ねの給食は、榊原淑友メダカの新米、森町の『究極のこしひかり』。マツタケご飯と白米ご飯。鈴木武史メダカのじゃが芋も。いやァ、今晩も満腹満腹。私語飲食全て禁止の次回3役発表。第58回は12月7日。校長佐藤律子、教頭池谷俊裕、用務員土井堅史。教頭の池谷俊裕メダカ、台風で被害のため欠席。代役は松下信久。がんばり3人組です。後日、佐藤校長が事務局を訪ねてきて、校長辞退の申入れ。事情を聞けば止むを得ず了承。秋の特別お知らせ号で報告した通り、急遽大場敬子メダカにお願いし受けて頂く。彼女も大学で勉強中、まさに頑張る3人組。

第58回のめだかの学校の職員会議を、9月27日(水)7時から豊岡元気村「味里」で開く。第58回は12月7日、第58回の授業について話し合う。「58回は15周年であるので通年テーマを決めてやったら…」「ひとりでも多くの人が話ができるように…」「技術の時代、エンジンについて話したい…」などの提案されたが、最終的に15周年通年テーマ「界を超えて」に決まる。界にも色々あるが、今回は11月14日には飯田市で「三遠南信サミット」が開催された。三遠南信には多くのめだか生も関わりをもっていることでもあり、「松田不秋メダカに1時間話してもらったら…」と、社会科「三遠南信に夢をのせて」松田不秋先生に決まる。

また「もう少し話しができるように給食の時間にテーブルごとにリーダーを決めて、自己紹介や自由討論のようなものをしたら・・」の意見も、57回の職員会議で「マイ箸」の話しもあり、材料も用意してあるので、58回からは『マイ箸』に、共に実施することに。マイ箸は給食の時間前につくる。

今回は、「校長の交代」「中津川市のサラダコスモ視察と交流会」「菜の花のタネまき」など。急ぎお知らせごとがあり「秋の特別お知らせ号」を手書きで発行しました。(名古屋市の山根圭二メダカ、『めだか通信、デザインが一新、カラーもついてオシャレに・・』だって)。

■今回もお礼とお詫び…

なかなか原稿が書けなくて…。加齢のせい?。そんな私を支えてくれた松本芳廣、石野省三、鈴木武史、伊藤英雄、溝口久、服部守孝、本島慎一郎、間渕亮太のメダカさん、ありがとう!感謝です。

■第15期の継続と申込みについて

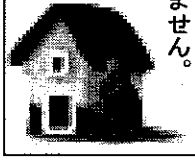
第15期は、平成19年9月1日から20年8月31日までです。まだ継続手続きがなされていない生徒は、今回をもって自動退学となります。ご了承ください。入校希望者がありましたら事務局まで、申込書と資料を送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行日は2月1日。原稿締切りは1月20日(日)です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》

間渕亮太090・5009・0986です。(メールの方は割付の関係もあるので一報を!)

■めだかの学校事務局

〒438・0105静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL0539・62・6691(FAX同じ)
学舎「みどりの郷」には電話はありません。
連絡 お問合せは事務局へ。